

<今朝の聖書から>

【ナルドの壺】中心になっている物の一つに“ナルド”があります。いったいどんなものなのか気になります。新約聖書には、ヨハネの福音書にも、いずれも“葬りの用意”として記録されています。埋葬に用いられたようです。高価なことも分かります。300デナリ(14:5)とありますから、先週出てきた通貨レプタの128倍、だいたい300日分、年報に当たるローマの通貨になります。このナルド、調べてみますと最近では“アロマ”の世界でも使われているようです。聖書はこれがとても高価なものだったと語っています。雅歌4:14には“ナルド、さふらん、しょうぶ、肉桂、さまざまの乳香の木、没薬、ろかい、およびすべての尊い香料である”などと三回ほど歌われていますし、伝説では、エデンの園を追放される時、このナルドを携えて出たとされ、価値を高めています。漢方の薬、発汗作用などがあるものと普通解釈されています(甘松香・かんしょうこう)。

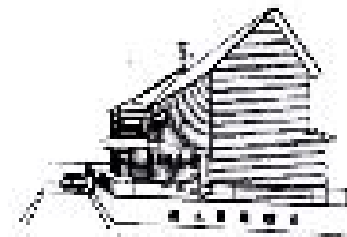
【その他の香り】新約聖書には、よく知られているように、没薬とか乳香等という言葉があります。私たちは、宝物のように教えられています。本当に香や感覚を経験する機会は多くないと思います。本当にそうなのかはっきりしない時もあります。ランプの油もどんな燃え方をしたのか、楽器はどんな音色だったのか、“知りたいものだ”と思ひましょう。

【正しい教え】“なんのために香油をこんなにむだにするのか。この香油を三百デナリ以上にでも売って、貧しい人たちに施すことができたのに(14:4~5)”とあります。ヨハネ福音書では、これを言ったのが裏切り者のユダになっています。この叱責のような教えに、私たちはどんな反論をするでしょうか。このような行いは正しいのです。主の救いとは関係なく、倫理的にも正しいでしょうし“施し”という充実感にもつながります。主の十字架と復活に関わった一人の女性の記録として読むことを私たちに求めているのです。加えてここはベタニアにある貧しいらい病人シモンの家です。そこに不釣り合いな“高価で純粋なナルド(14:3)”が描かれています。けれども怒った人々は、決して、主が“貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいる(14:7)”と諭されているように、自らの口から出たよいことを決して行わないのです。

【記念として語る】この女のした事も記念として語られるであろう(14:9)”と主が仰っているように、十字架を目前にして、主の復活の中に生きる教会の務めとして、こう言われるのです。パウロは“わたしの欲している善はしないで、欲していない悪は、これを行っている(ローマ7:19)”と伝えています。復活に教会は何時も関わり、支えられているのです。

週報

2010年 9月 12日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042